

施策マネジメントシート(平成27年度の振り返り、総括)

作成日 平成 28 年 6 月 29 日

基本目標	I	誰もが安心して安全でゆとりを感じるまち	主管課	名称	総務課
				課長	原澤 志利
施策	11	交通安全対策の推進	関係課		

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図	
						基本事業
①町民		①交通事故にあわない、起こさない。	1	交通安全意識の高揚	町民	交通安全に対する意識や知識を高める。
			2	交通安全施設の整備	町民	安全に通行できる。
			3			
			4			
			5			

成果指標	成果指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
				実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
A	交通人身事故発生件数(町内/町民が第1当事者)	件		94/107	114 /130	82/93	90/108	74/89		
				実績値	目標値	93/105	91/102	90/99	88/96	87/93
B	交通事故による人的被害者数(死者/傷者)	人		1/133	1/162	1/109	0/141	0/96		
				実績値	目標値	0/131	0/129	0/127	0/125	0/123
C	交通安全施設の要望に対する設置率	%		64.3	62.2	68.8	90.0	66.7		
				実績値	目標値	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
D				実績値						
				目標値						
E				実績値						
				目標値						
F				実績値						
				目標値						

指標設定の考え方と実績値の把握方法

A) 直接的な設問であり、件数が減れば目的が達成されているといえるため成果指標とした。  
 交通人身事故統計年報による  
 ※1月～12月の数値

B) 直接的な設問であり、件数が減れば目的が達成されているといえるため成果指標とした。  
 交通人身事故統計年報による  
 ※1月～12月の数値

C) 数値が高まれば、目的が達成されているといえるため成果指標とした。  
 ※交通安全施設の設置箇所数/地区からの要望箇所のうち、必要と判断された箇所数

目標値設定の考え方

A) 人身事故発生件数(町民が第1当事者)は、人口が毎年2%減少すると予測されるため、成り行きでは毎年2件減少する。毎年3件ずつ減少させることを目標とする。人身事故発生件数(町内)のうち、約半数が町民が第1当事者であることから、成り行きでは毎年1件減少する。目標として2年で3件の減少をめざす。【交通人身事故第1当事者市町村別居住状況(人口10万人あたり)榛東村:1,113人(H23)、昭和村:570人(H23)、沼田市:568人(H24)、片品村:563人(H23)、川場村:391人(H23)、みなかみ町:514人(H23)】

B) 交通事故による死者数は0件をめざす。傷者については、交通事故の約半数が町民であることから、成り行きでは人口の減少に伴って毎年1件減少と設定。交通人身事故発生件数との相関関係が強い指標であり、事故1件あたりの負傷者数を平成23年度実績の1.41と想定して、平成29年度には85件×1.41=120人をめざす。

C) 要望箇所数は、交通安全施設の整備により減少傾向にあると考えられる。設置の必要性はあるが協力を得られないなどの外的要因(用地問題、国・県協議等)により実施できない場合もあり、成り行き値は要望に対し70%で見込んでいる。目標値は、交通安全に対する必要性を関係者に訴え、理解・協力してもらうことにより80%の設置をめざす。

施策のための目的・役割分担	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	①交通安全を意識し、交通事故をおこさないようにする。 ②歩行者、運転者ともに交通ルールを遵守する。	①関係機関と連携し、交通安全施設の整備を推進する。 ②交通事故の防止を図るため、交通安全の啓発活動を推進する。 ③警察に要望していることについて、1日も早く実現してもらえるようにより具体的に伝え、連絡を密にする。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	高齢化に伴い高齢運転者の増加が予想される。	①交通事故をなくしてほしいという期待がある。 ②ガードレールやカーブミラー等を設置するなど交通安全対策を進めているが、交通事情の変化により新たな場所に設置を求める声がある。 ③通学路の安全対策を求める声がある。 ④消雪・融雪施設の設置を期待されている。

施策	11	交通安全対策の推進	主管課	名称 総務課
				課長 原澤 志利

		実績比較	背景・要因
施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	① 時系列比較	<input type="checkbox"/> かなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	①町内の交通人身事事故発生件数の経過は、平成26年は90件だったが、平成27年は74件と16件減少している。また、町民が第1当事者となった交通人身事事故発生件数は89件で平成26年の108件から19件減少している。このうち第1当事者が町民でかつ町内であった事故は57件から41件になっており、16件減少している。交通人身事事故発生件数について時系列では、昨年の9.8ポイント増から17.8ポイントの減で県全体の6.7ポイント減を大きく上回っている。 ②町内の交通事故負傷者数は、平成25年は109人、平成26年は141人。平成27年は96人となり45人減少している。平成27年度は積雪が少なく冬期の事故が少なかったことが要因と思われる。 ③交通安全施設について、平成26年度は要望20件のうち18件実施した。平成27年度は21件の要望に対し14件実施している。設置率は66.7%であった。
	② 他団体との比較	<input type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	①平成27年中の利根沼田地区交通事故発生件数は、沼田市259件、片品村12件、川場村12件、昭和村19件、みなかみ町74件となっている。10万人あたりの交通事故発生件数では、沼田市534.8件、片品村275.2件、川場村331.1件、昭和村262.4件、みなかみ町385.6件となっており、近隣市町村と比較して沼田市に次いで多い。 ②平成27年中の人口10万人あたりの交通人身事事故発生件数のうち、第1当事者数を県内市町村で比較すると、最良が上野村で244.50件、最悪が榛東村で905.10件となっている。近隣市町村の順位は片品村、川場村、昭和村、みなかみ町、沼田市の順となっている。昨年に比べるとみなかみ町と沼田市が入れ替わっている。 一方で、人口10万人あたりの悪質事故(無免許、飲酒、速度違反)に限ってみると、みなかみ町は10.42人で昨年のワースト7位から6位と順位が悪くなっている。平成27年度の内訳は、飲酒2件であり、昨年と比べ1件減少している。県全体の悪質事故は無免許40件、飲酒96件、速度33件、計169件である。
	③ 目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	①交通人身事事故発生件数の実績値は、町内で発生した事故件数及び町民が第1当事者の件数ともに目標を達成した。 ②交通事故による人的被害者数の実績値は、死者数0人、傷者96人であり、目標を達した。 ③交通安全施設の要望に対する設置率の実績値は66.7%であり、目標値を下回った。要望には警察が設置するものも含まれており、警察への要望は順番待ちの状況である。
成果実績に対する総括	①四季の交通安全運動期間中には、警察や交通安全協会、交通指導員、交通安全会女性部等と連携して、交通事故防止を呼びかけた。 ②子どもが交通事故にあわないように、交通安全教室を幼稚園やこども園、各小中学校で実施した。 ③交通指導員の協力を得て、各小中学校における交通安全指導に加え、町民体育祭や地区の祭り等イベントにおいて交通事故防止の啓発活動を行った。 ④交通安全対策施設整備事業として、交通安全対策特別交付金(国費)等により、カーブミラー(10件)・ガードレール(129.0m)・区画線(1,654m)などの整備を行った。 ⑤交通安全だよりを各行政区へ配布し、地域における交通安全を啓発した。 ⑥水上地区では交通安全会が独自に組織されており、新入学児童の下校指導や四季ごとのシートベルト着用街頭指導などを実施している。 ⑦通学路における危険箇所などについて、国土交通省や沼田土木事務所、沼田警察署、教育関係者、町で点検・確認を行い、安全確保のための協議を行った。		

		基本事業名	今後の課題	平成29年度の取り組み方針(案)
今後の課題と取り組み方針(案)	1	交通安全意識の高揚	①児童生徒の通学路について、PTAや学校などと連携して、安全を確保する必要がある。 ②高齢者の自動車運転操作の誤りによる事故が増加している。	①通学路の危険箇所について情報収集し、関係団体(警察、教育課、地域整備課等)と連携して改善する。 ②各こども園や小学校で開催する交通安全教室において、交通ルール等について啓発する。 ③高齢者の自動車運転に対する事故防止を啓発する。
	2	交通安全施設の整備	①道路の危険箇所への交通安全施設の新規設置及び老朽化した施設の改修や設置替えが必要となっている。	①新規設置や改修等が必要な交通安全施設の迅速な把握と、改修等を実施する。 ②県道や国道は警察や県土木に要望後、改善の見られない施設については、必要に応じ繰り返し要望していく。
	3			
	4			

